

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から、利用者及び家族に親しまれるグループホームとしての理念を定めている。20年度、職員一人一人の介護に対する思いや、どのようなホームを目指すのかなどを出し合い、それを基に地域との良い関係を継続する為の視点を盛り込んだ理念作りを実施した。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念を基に毎月の目標を定め、毎朝の申し送り時に確認し職員共通の目標として取り組んでいる。	○ 理念について職員会議で話し合い、具体化に向けた取り組みを進める
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに記載すると共に、家族に対しては入居時説明している。地域の方には運営推進会議、地域交流行事で来所された時ホームの取り組みを説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と職員が散歩などで外出し近所の方に出会ったとき、挨拶をしている。	○ 日常的に地域の子供、老人、家族が気軽に集えるホームを目標としている
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の規約により賛助会員として入会している。小学生との交流会など実施している。町内の方に行事の案内を出し、参加していただき利用者さんとも交流できている。ホームの行事で公民館を通じボランティアの方による日本舞踊などの公演を実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会で、地域貢献について何が出来るか話し合っている。	○	運営推進会議や交流行事等で地域社会との連携を深めることで、地域貢献へのステップアップを目指す
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3月からガイドブックを基に日々の支援の項目(50~82)について、1日1項目づつを全職員が確認し、日々の介護を振り返る機会としている。出勤していない職員にはノートで伝えるようにした。評価の結果だけではなく、改善すべき事があれば日々問題解決、改善に取り組んでいる。	○	評価で指摘された項目・内容について話し合いの場をもち、改善の努力を継続する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会議ではグループホームからの報告・行事の案内・意見交換が出来ている。出された意見を基に話し合い、可能ならば実施している。今年度から地域の小学校職員、公民館職員にも参加してもらい意見交換の幅を広げている。	○	グループホームとしての取り組み・内部研修等について、より詳しく報告し幅広い意見交換を継続する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、徐々に事業所を理解していただいている。市からの情報提供により、地域交流のきっかけとしている。	○	サービス向上のため情報の共有、連携、協力を進める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	2種類の制度について内部研修を実施し理解に努めている(全員参加)。	○	制度の活用が必要な方がいれば対応を話し合い、家族とも協議を進める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の虐待予防対策研修に参加し、その後、内部研修を実施。利用者本位の生活を守ることを通して虐待の予防を実践している。	○	虐待の予防について話し合う場をもつ。虐待が起きたときの対応について取り決めをする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明する項目リストにより、わかりやすく説明している。個別の希望、質問にも柔軟に対応する。対応困難にて契約解除を進めるときは、十分な説明・他施設の紹介などできる限りの支援を実施している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から居室担当者を中心に利用者の意見、不満を聞くように心掛けている。必要に応じ朝礼、職員会議でも取り上げる。外部の相談窓口については書面で紹介、説明している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のお便りでグループホーム内の行事の様子と併せて、居室担当者から個々の利用者の様子をお知らせしている。個々の介護計画を家族にわかりやすい言葉で書き換え『ケアプランのご説明』として送付している。金銭管理伝票による報告を月に1回実施している。特に変わったことがあれば電話等で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事のため来所するとき、ケアプランの説明書、アンケートなどでも意見を聞くようにしている。必要ならば朝礼、職員会議でも取り上げる。外部の相談窓口については書面及び家族総会などで紹介、説明している。運営推進会議で「相談、苦情」をテーマに話し合いの場を設けている。	5月に家族へアンケート送付して8月の運営推進会議で回答及び説明を実施している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼及び毎月の職員会議に出席し、現場の声を聞いている。出された意見は施設長、理事長に報告しホームの質の向上につなげている。その他、理事長と職員は連絡ノートなどにより、日頃から連絡を取り合っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホームの職員は両方のユニットの早番・日勤・遅番及び夜勤の仕事を順次ローテーションして受け持つことにより、全利用者を把握し馴染みの関係が出来ている。状況の変化に対しての勤務調整はスムーズに出来ている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当を決めより深く親しみを持った関わりを継続している。法人内の定期異動は実施していない。離職による交代がある時は、利用者・家族への説明・引継ぎに十分配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	職員会議、カンファレンスを研修の一環と位置づけ、認知症介護について利用者から学ぶ気付きを大切にする
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	運営推進会議を通して相互訪問等の交流が定例化することを目指している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを受け止め状況を把握、ホームとして出来る事・出来ないことをわかりやすく説明し対応している。		新しい課題・問題点が起った場合早急にミーティングを行い対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム内を案内しわかりやすく説明し、グループホームに無理なく馴染めるよう配慮している。本人と他の利用者の性格、行動など考慮、関係を調整するなど全職員で取り組んでいる。		家族さんとの連絡を密に取り利用者の不安・要求等じっくり聞いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、掃除、裁縫など日常生活場面において、利用者から教えられ助けていただいている。あるいはそのような場面を意図的に作り出し、助け合う関係を基に活力の維持・向上を目指している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの様子、介護者の働きかけについて家族に伝え話し合うなど、随時行っている。必要ならば本人の思いを家族に伝え協力依頼をしている。個々の介護計画を家族にわかりやすい言葉に書き換え「ケアプランのご説明」として送付し、支えあう関係強化を目指している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に家族との関係、家族の想いを聞き行事、面会時、本人と家族が共に過ごす時間を大切にし、時には職員が間に入り支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活、家族・友人・知人について情報収集し理解に勤めている。本人の希望を聞きお墓参りなど個別に実施している。	○	個別に外出する機会を増やし、又は家族以外にも面会の依頼をするなど。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士の仲の善し悪しを把握し日常生活、ケアに活かしている。孤立しがちな方が居れば他の利用者にも協力依頼し、声をかけてもらうなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一部の退去者を訪問するなど関わりを維持している。入院治療が進み退院後に備えて、家族とも相談しながら入所先について紹介、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者は生活の中で本人の希望を聞きプラン、実施につなげている。言葉での疎通性が低い方は態度、表情などから理解に努め職員、家族と話し合うなどしている。カンファレンスに本人も参加し思いを受け止める場としている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書からこれまでの生活歴を読み取るとともに、日常会話の中で把握に努めている。		本人の家族との関係の中から小さな情報・事柄も大切に把握する様努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はグループホーム内で生活を共にしており、1人1人の方の現状を総合的に把握し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人も出席し居室担当者を中心に、その日の日勤者全員でケアカンファレンスを実施。本人の現状、希望、家族の考え、他利用者への影響など考慮したプランとしている。全職員が目を通し、家族へはわかりやすい言葉に書き換えた物を送付している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月毎にカンファレンスを開き、プランを見直し家族にも伝える。状況の変化、新たなニーズが発生した時はミーティングと申し送りノートで情報を共有し、必要に応じてプランの見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有には介護記録だけではなく、申し送りノートを活用している。更に朝の申し送りで個別の必要事項を伝達している。介護記録にケアプランに関して実施の結果・状態の変化・新たなニーズ・特記事項などプランの見直しに役立つ記事は、わかりやすく四角で囲み活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況の変化、個別の希望に対しては職員間の話し合い、家族の意見も聞き、事業所として何が出来るか検討した上で柔軟に対応している。一人一人の誕生日にあわせて特別な外出支援や、日常のお買い物の支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームとして養護学校、公民館などから実習、ボランティアを受け入れている。同一法人内の医療機関と連携している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム以外の介護保険サービスは原則として利用していない。希望に応じ移動理美容車を利用している。病院受診などで家族が対応困難な時は、外部事業所のヘルパーを利用して頂くが、十分な話し合いにより円滑な支援に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、情報交換している。	○	今後の協力関係、連携の在り方について話し合い交流を進める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については本人・家族の希望を尊重している。医療機関利用時は適宜情報交換し、家族にも納得していただき受診の支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	就業規則・契約書に個人情報の保護について明記し、職場内研修にて再確認している。利用者の誇りを尊重し、尊厳・権利を守るため、接遇のマニュアルを基に日々を振り返り、本人を傷つける言葉かけなどをチェックしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	日頃から利用者の希望・好みを把握し、その日の服装、過ごし方、入浴、レクリエーションへの参加など本人の決定を尊重し支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方として基本のスケジュールはあるが、1人1人の気持ち、ペースを考慮した声かけをしながら柔軟に介護している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装については本人の好みを尊重している。おしゃれを楽しむ時間を設けたりケアプランに盛り込むなどして、身だしなみについて意識を持てるよう工夫している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じ調理、片付けに積極的に参加され役割、楽しみ、自信を持ち続けて頂いている。昼食は日勤者が(朝・夕食は夜勤者が)同じ時間に同じメニューを同じテーブルで、楽しく食事している。食材の買出しや、畑で野菜の収穫も楽しめる機会を設けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶・おやつなど個人の好みを把握し、1人1人が楽しめる様支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立度に応じて失敗の原因・対策について職員が話し合い、トイレ誘導など1人1人に合った支援をしている。リハビリパンツ・尿取りパットなど使い方をわかりやすく説明し、納得していただき快適・清潔の保持につなげている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活のリズムを整える為に入浴の曜日・時間を設定しているが、気候や行事あるいは、個人の体調や気分に合わせて柔軟に対応し、週4回の入浴を気持ちよくゆったり楽しめるよう工夫している。	○	利用者のそれまでの暮らしや希望を考慮して、より満足の得られるよう工夫をする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人1人の生活リズム・睡眠・休息のパターン等、生活の中で把握し、最近の数日間の活動状況・体調を考慮しながら、1人1人に合った休息と活動を組み合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者1人1人の得意なこと楽しみについて情報を共有し、日頃から個人の得意なことに合わせて家事・歌・散歩・塗り絵・畑仕事など主体的に力を発揮していただけるよう工夫している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金銭管理能力に応じて所持している。日頃はお金を持たない方も日々の食材の買出しに職員と共に行き、その他機会ある毎にお金に接することを大切にし、買い物を楽しんで頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から1人1人の希望を聞き、役割・楽しみが得られるようにちょっとした外出・散歩などの機会は多い。希望が無くても職員と共に短時間でも戸外に出て、リフレッシュ出来る様に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の希望によりコンサートに出掛けたり、お墓参りの時期、誕生日に合わせて希望を聞き外出支援している。	○	居室担当者が普段から希望を把握しケアプランにも反映、他の職員にも分かりやすくする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする時、手紙を書く時は個人の能力に合わせて出来ない部分を補うなどの支援をしている。数人の方はホームからの便りに本人の手紙を同封することがある。	○	家族さんのボランティアにより月2回、来年の年賀状を出す目的で漢字の練習をしてもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、来客があれば気持ちよく出迎えホール又は居室で過ごしていただいている。家族だけで話したり、必要なら普段の様子をお伝えするなどしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事とし、ホーム内研修を通じ身体拘束の内容及び弊害について全職員が理解している。危険防止、他者への迷惑行為防止等どんな理由でも拘束は行わない事としている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として鶴の家、玄関は施錠しない。行動の制限を最小にする為、時間の許す限り利用者に付き添い、話を聞き行動を共にしながら利用者理解に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外出される時は行き先、帰りの予定時刻を確認している。ホーム内では担当者を中心に所在、様子を確認しながら他の業務も行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、針、ハサミ等危険のないよう職員が管理し、その他のものは、1人1人にとっての必要性、具体的な危険性を個別に考慮して対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別に想定される事故を検討し、事故防止の具体策をケアプランに盛り込んだり、ヒヤリハットを基に事故防止策を話し合っている。事故防止のためのホーム内研修実施。毎朝の体操・ストレッチを通して、転倒防止につなげている。	○	定期的に事故防止について話し合いの場を設け、継続する。運営推進会議・総会など大きな事故など報告する予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルに添って対応を確認したり、年1回全職員対象の救命講習を実施している。	○	緊急時マニュアルについて定期的に再確認する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員と全利用者参加で年2回の避難訓練を実施している。同一法人のケアホームとの協力で災害時の被害を最小限にするため、訓練の時相互に参加する予定。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	糖尿病・高血圧・転倒・事故などの危険性について家族に説明し、緊急時の対応について家族総会などで話し合いの場を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化しやすい方、又は体調不良の時は特に重点的に気配りをしている。申し送り及び連絡ノートにより情報を共有し把握している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通常のお薬情報は介護録に綴じて見るようにしている。薬による状態の変化や、特に注意を要する薬については、申し送りと連絡ノートで伝達する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	グループホーム内研修で便秘をテーマに話し合っている。排便チェックを毎日して便秘がちな人はカンファレンスでも取り上げ対策を協議している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さを利用者に説明すると共に声掛け・見守り・介助等、個別に能力に応じて支援している。誤嚥防止のため毎朝嚥下体操を実施している。口腔ケアについての内部研修を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調が悪い方など個別に注意が必要な方には、職員が話し合う機会を持ち間食も含めて考慮しながら把握・ケア・記録している。栄養摂取についての内部研修を実施。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、各感染症に対して予防、発生時の対応を決めている。希望によりインフルエンザ、肺炎球菌ワクチンの接種を実施している。	○	定期的にマニュアルの内容を再確認する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理は季節に応じて適切に行い、調理器具・食器のハイター消毒及びキッチン掃除を毎週1回行っている。個人で居室に置かれている食品についても気配りしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はスロープ、手すりを設置し安全に配慮している。観葉植物・花・あずまやなどにより、落ち着いた良い雰囲気としている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り(正月・節分・雛祭り・5月人形・・・)をはじめ花・本・アルバム・テレビなど配置したりBGMを使いリラックスできるように配慮している。利用者が見つけた落ち着ける場所があれば、その場を大切に過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓以外に畳のコーナー、ソファなど配置。利用者は居室とは別に自分の居場所をもたれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物品、過ごし方は本人と家族が主体となり決めて、必要ならば職員が相談を受け対応している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行い、室温は利用者の声を取り入れ、職員も肌で感じた上で調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る範囲で無理なく能力を発揮できるよう配慮し、心身機能維持、向上を目指している。屋内の段差をなくし手すりを要所に設置している。個々の利用者に合わせた安全への配慮・道具の工夫を適宜実施している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗や混乱があれば原因を明らかにして、個別に対策を協議し環境・物品の工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	あずまや・ベンチ・花壇・畑があり数人でくつろいだり、一人ひとりに合った使い方で活用している。	○	花の世話・畑仕事などの楽しみを継続できるよう支援する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①食材の買出し・調理・掃除・洗濯等、能力に合わせて役割を持てるように支援し生き甲斐につなげている。 ②庭に花・観葉植物を置いてくつろげるスペースがあり、花の世話・畑仕事などの楽しみを持って生活できる。 ③利用者と職員が同じメニューを同じテーブルで食べ、食事中は笑顔が絶えない賑やかな食卓である。 ④利用者がそれぞれの能力を發揮してお互いに助け合いながら、共同生活が出来るよう配慮し実践している。 ⑤年中行事は明るく広いスペースを利用し、担当職員を中心にアイデアを出し利用者・家族が楽しめる様々な工夫をしている。 ⑥誕生日に利用者1人1人の希望に応え、外出などの楽しめる過ごし方をしている。 ⑦ホームから家族への便り「まんぶくの星」で行事の様子を伝えたり、居室担当者から手書きのメッセージを送っている。 ⑧ホールにはピアノを置き毎週歌の時間を設け、多くの利用者が歌を楽しんでいる。 ⑨誤嚥防止のため、嚥下体操を実施すると共に楽しみながら食事に向えるような声掛けを心掛けている。 ⑩日常的に体操・手作業などを取り入れ、心身能力の維持・向上に努めている。